

ぎょう とく みち 行 徳 道

江戸時代の直線道路

ぎょうとくみち もとさくらみち
行徳道は江戸時代から、元佐倉道(現千葉街道)と並んで、江戸川区域を東西に横断する重要な道路でした。

この道は中川(旧中川)の平井の渡し(平井六丁目)から、^{よつまた}四股で元佐倉道と交差し、東小松川村・西一之江村・東一之江村を経て、今井の渡し(江戸川三丁目)に達します。

中世からの水運の拠点であった今井から対岸の行徳河岸(現市川市)へ舟で渡ると、船橋から佐倉・成田へ行くことができました。



江戸時代の道(┆は道標)

行徳道ができた年代は不明ですが、古くは^{ぎょうとくしお}行徳塩の輸送路とも考えられています。また文化2年(1805)に作成された江戸近郊の幕府御鷹場の地図「^{ぶんか}葛西筋御場絵図」から、小松川境川や一之江境川、十数本の大小の用水路を橋で渡り、田畑を貫くほぼまっすぐな道だったことがうかがえます。道筋には御膳所であった^{おたかば}仲台院^{かさいすじごじょうえず}もあり、将軍鷹狩りの際の主要な道でもあったようです。

江戸時代、庶民はこの道を成田山や浅草観音への参詣路に利用していました。道沿いには行徳や浅草などを指し示す道標が残されています。平井の諏訪神社脇にある^{きょうほう}享保19年(1734)建立の下平井の観世音菩薩浅草道石造道標の右側面には「あさくさ道」、左側面には「是より佐り(左)ぎょうとく道」と刻まれています。また平井駅北口の庚申堂前に移された浅草道石造道標や、四股にあった2基の道標も、行徳や浅草などの方向を示していました。



下平井の観世音菩薩浅草道石造道標

明治・大正時代の行徳街道の変遷

明治時代になると行徳街道とよばれましたが、両端の中川と江戸川には橋がなく渡し船に頼っていました。

明治32年(1899)4月、総武鉄道の平井駅が開業され、また同年7月に平井橋が架橋されました。明治45年(1912)に下江戸川橋(現今井橋)ができると、千葉街道とともに東京と千葉を結ぶ幹線道路となったのです。

大正時代には、国道の千葉街道は荷馬車の通行が多く、逆に人と自転車は行徳街道のほうが数倍多かったようです。大正2年(1913)から荒川放水路の工事が始まり、千葉街道と行徳街道の交差する四股と両街道沿いの集落が河底に沈み、街道とその周辺の状況が大きく変わりました。

大正11年(1922)小松川橋ができると、松江橋と結んで旧行徳街道の北側に新道ができ、現在の今井街道になりました。さらに同14年(1925)、じょうとう城東電車が小松川橋東詰の東荒川から今井まで行徳街道沿いに開通すると、東荒川駅付近は現在の松江大通り商店街の原型となるにぎわいのある街となりました。

区民の生活道路「今井街道」へ

その後、城東電車は市電、都電と名を変え、昭和27年(1952)トロリーバスに代わり、そして、このトロリーバスも同43年(1968)に廃止、路線バスの運行になりました。また平井橋から船堀街道交差点までの旧行徳道は、平井駅周辺の区画整理と荒川・中川開削で一部は消滅し、残っている道もかつてのような人や車の通りはありません。かつて、江戸(東京)と行徳を結んだこの街道も、今は首都高速道路や鉄道に中距離輸送の役割を譲り、区民の生活に密着した「今井街道」として活躍しています。また今井周辺は、昭和13年(1938)に起工した新中川が同38年(1963)に完成、61年(1986)には都営地下鉄一之江駅が開業し、街の景観も一変しています。



現在の平井橋



現在の小松川橋



今井街道 (松江大通り商店街)



西小松川町に残る旧行徳道

江戸川区郷土資料室

〒132-0031 東京都江戸川区松島 1-38-1 グリーンパレス 3階
TEL : 03-5662-7176 (9:00~17:00)